

【ATC フィロソフィ⑰】

こんにちは、アークテックコム株式会社で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。



ウェブサイト：
<https://arc-tec-com.com>

Tel : 050-6864-6201

Fax : 050-6864-6202

E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

宇宙の意志と調和する

今月は弊社のフィロソフィの紹介と応援メッセージをお送りします。

弊社のフィロソフィの続きです。

宇宙の意志と調和する心

世の中の現象を見ると、宇宙における物質の生成、生命の誕生、そしてその進化の過程は偶然の産物ではなく、そこには必然性があると考えざるを得ません。

この世には、すべてのものを進化発展へと導く流れがあります。これは「宇宙の意志」と表現されるものです。この「宇宙の意志」は、「愛」と「誠」と「調和」に満ち満ちています。そして私たち一人一人の思いが発するエネルギーと、この「宇宙の意志」とが同調するのか、反発しあうかによって人の運命が決まってきます。

宇宙の流れと同調し、調和をするような純粋な心で描く美しい思いを持つことによって、運命も明るく開けていくのです。

ここで言う「愛」は、他の人の人間性や考え方を受け入れ認める心。

「誠」は、世のため人のためになることを思う心。

「調和」は、自分だけでなく周囲の人々が、常に幸せに生きることを願う心のことです。

先のお釈迦様の教えにも、「心が清らかであれば、あなたが歩まれる道も平らなものでありましょう」とありました。このことは、宇宙には「宇宙の意志」と呼べるものがあるのではないかと考えると説明できます。

我々のいる太陽系は、銀河系に属しています。この銀河系には、太陽系に匹敵するものが何億もあるだろうと言われています。そしてまた、この銀河系に匹敵する銀河も、この宇宙には

数えきれないほど存在するそうです。

このように、宇宙はとてつもなく大きなものですが、現代の物理学者に言わせると、宇宙の始まりは、ごく一握りの超高温・超高压の素粒子の塊だったそうです。それがあるとき、大爆発を起こしてこの宇宙をつくり、現在でもまだ膨張し続けているというのです。この「ビッグバン・セオリー」は、最近では宇宙物理学者の観測データなどによって、正しいことが証明されてきています。

とてつもなく巨大な宇宙が、なぜ一握りの素粒子からできたのかと不思議に思われますが、最先端の物理学の知識をもって計算してみるとそうなるのです。このことをとらえて、宇宙は「空」から生まれたと言ってもいいのかもしれない。

仏教では「色即^{しき}是^ぜ空^{くう}」と言い、あるように見える

ものは実は全部「空」なのだと教えています。現代物理学の言うごく一握りの素粒子の塊が爆発して広大な宇宙ができていったということは、もともとこの宇宙は「空」だったとも言えます。また、真空からこの宇宙が生まれたという説まであります。真空というのは本来「何も無い」という状態ですが、それは膨大なエネルギーを含んでいたというのです。

ここで、原子の構造について考えてみたいと思います。周期表に出てくる原子の中で最初に登場し、最も質量が小さいものは水素原子です。水素原子には原子核がひとつあって、その周囲を電子がひとつ回っています。原子核は、陽子と中性子、そして中間子で構成されています。

最新の大型の加速器を使って、中性子や陽子を猛烈なスピードで衝突させて壊しますと、そこから素粒子が出てきます。このことから、複数の素粒子が結合して陽子や中間子、中性子がつくられたということがわかりました。

宇宙開闢のとき、もともとあった素粒子がくっついて陽子をつくり、中性子をつくり、中間子をつくり、

その中間子の働きで陽子と中性子が結合して原子核を構成した。そして原子核の外側に電子がひとつトラップされて水素原子ができ上がった。

原子同士がくっつくことを「核融合」と言い、この核融合によって水素原子同士がくっつきまると、ひとつの質量の大きい原子ができます。周期表によれば現在約100種の原子があるとされていますが、もともとはひとつの素粒子だったのが、このようにして次から次へと結合して、現在の物質世界を構成する各種の原子をつくっていったのです。

それには、その原子同士が結合して分子をつくり、分子が結合して高分子をつくります。また、その高分子は、DNAという遺伝子が加わることによって生命体が変わっていきます。地球上に生まれた最初の生命体はアメーバみたいな原生動物であったわけですが、そのアメーバが進化を繰り返し、我々人類のような高度な生物までをつくり上げていきました。

もともと、この宇宙は一握りの素粒子から始まったのです。しかし、それは一瞬たりとも現状のままにとどまらず、結合を繰り返し、

現在の宇宙を形作ってきました。つまり、宇宙には、一瞬たりとも停滞することなく物事を進化発展する方向へ進めていこうという流れがあるのです。この流れを「宇宙の意志」と表現します。

一瞬たりともとどまらないで、森羅万象あらゆるものを進化発展する方向へ導こうとする流れ、もしくは、意志のようなものが、この宇宙空間に偏在している。だから、「私はもう進歩しなくても結構」とか、「私の会社はもう伸びなくてもいい」と考えても、この宇宙はそうさせてはくれない。「どんな会社であっても伸びるのだ」と言わんばかりに、すべての生きとし生けるものを進歩発展する方向へ導こうとするはずです。

宗教家は「宇宙には愛が充満している」と言います。仏教ではこのことを「慈悲の心があまねく存在している」と表現しています。これと同じ意味で、すべてのものを進化発展する方向へ導くような意志が、この宇宙にはあるということなのです。

世界的な数学者である広中平祐氏や、宇宙物理学の権威である佐藤文隆氏も、「そのように理解すること

ができるのかもしれませんが」と答えられています。広中先生や佐藤先生のような、あくまでも自然科学に立脚した考え方をされる人たちでも形而上学的な、または精神的なことに理解を示されるようになってきているのです。

※2024年08月号に続きます。

応援メッセージです。

多様性を認める愛

同じ事実から違うことを感じ考え判断する。その違いが企業等の集団を壊すことにまで繋がる可能性があります。

お互い同じ事実を見ながらも、自分で見ているものと感じるものが正しい、もしくは唯一と確信して思い込むから厄介です。

少なくとも、自分が捉えていることと違う捉え方が存在することを認識してさえいれば、そこから起きる齟齬が大きな問題にならないのですが。

そして、自分と違う捉え方をして、行動する人を疑うという視点で見ます。その奥底に敵対的な意識があるのではと思い始める。

そのような敵対的な意識

があると思い込んで見ると、その人の行動が敵対的な行動に見えてしまう。

さらに、敵対的な行動をしていると見られている側も、そのような視線を感じ続けるうちに、相手が自分を敵対視していると確信するように成ります。

こうなってくると厄介で、もうどちらが先だったかは関係なく、敵対的な感情が全ての判断を覆ってしまいます。

こんなことが企業や集団内で起きようものならば、それも幹部間で起きようものならば、会社を破壊させる状況に至ってしまうでしょう。

同じ事実から違うことを感じるなどは、当たり前のことです。このようなことが存在することを理解したうえで、お互いの違いを認め合い、調和していくことが必須です。

その時に最も役立つものは、相手のためになるのは何か、最も喜んでくれるのは何かを、自分のことよりも先に考えることです。

豊原 信